

# 白浜司教様をお迎えした新年

1月7日、2年ぶりに白浜司教様が公式訪問され、司教ミサが行われました。14名



が堅信を受け、また、聖書写経完了者4名と教区教会巡礼完了者1名が表彰されました。



第171号  
2024年2月25日  
発行所  
祇園カトリック教会  
信徒会  
hikari@gionkyokai.jp

た。受験生と新成人への祝福もいただき、司教様とともにお祝いと祈りをする事ができました。

ミサ後に信徒会館で、コロナ禍を経て久しぶりの賑やかなパーティーが開かれました。受験者が自己紹介し、教会学校の子どもたちから司教様への感謝の歌が贈られました。祇園地区の皆様による美味しい料理が会場を彩りました。

司教様との交流を通して、これからも祇園教会は、みんなで共に信仰を歩んでいく思いを新たにできたと思います。(広報委員会)

### ◇ミサを支える奏楽◇

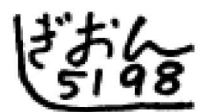
白浜司教様の公式訪問で堅信式・新成人と受験生のためのミサが行われました。聖堂入口中央からの行列による入堂や祭壇での献香など、普段のミサとは違う流れで、緊張の中聖歌の歌唱やオルガンの演奏を行いました。ミサ曲も栄光の賛歌を含め全曲を歌いました。

さて、2022年11月待降節第1主日から新しい「ミサ式次第と奉献文」が実施さ

れ、ミサ曲も新しくなり、祇園教会でも、昨年10月から新しいミサ曲を歌い始めました。ミサ曲には慣れられましたか？今歌っている曲は、グレゴリオ聖歌の旋律を活かして作曲されているので聞き馴染みがあるかもしれないかもしれません。現在聖歌隊は、9時半のミサの前にその日歌われる曲やミサ曲の練習をしています。少しでも歌のリードができるよう練習に励んでいます。ミサ曲も信徒の皆さんに早く覚えてもらえるよう頑張つて歌いたいと思います。

また、四旬節を除いて、入祭前・聖体拝領・退堂の時にオルガン曲が演奏されます。その日の典礼に合わせてオルガニストが選曲しています。例えば、聖母マリアの主日では、グレゴリオ聖歌のアベマリアの旋律が使われている曲などです。その日の典礼を思い起こしながら、沈黙の内に演奏を聴いていただくことで、お祈りのお手伝いができればと思っています。

聖歌隊・オルガン奏者代表  
瀬良博文



私は、敬虔なカトリック信者の両親のもと、幼児洗礼で信者になりました。中学生ぐらい

までは、教会学校にも行っておりましたが、高校生になってからは、「たまには教会に行きなさい」という両親に対して、私の意志でなく勝手に信者にしてと、ソッポを向いておりました。▼子どもたちも巣立ち還暦を過ぎたころ、祇園地区の信者さんに「二度、地区会に来ない？」と誘われて、又いつも日曜日が待ち遠しく走り回っていた母も足腰が弱くなり、大好きな教会に行くこともままならない時でしたし、入れ替わりのように40年ぶりに行くようになりました。▼今、日本は豊かになり生活スタイルも大きく変わり、宗教に対する希薄さは顕著であります。仕方ないことかもしれませんが、今一度原点に立ち返り、司教教書にもありますように「あなたかさのある教会」を目指し、李神父様と信徒の皆様との橋渡しになれるよう今年も頑張りますので、皆様のご協力よろしくお願ひします。  
加藤正明